

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成30年 5月12日
(67号)

中之島こゝろ

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第68講

「人生耐えて勝つ」

山下智茂先生



■母の背中

人生の99%は出会いだと思えます。あとの1%は運。出会いが人を磨いてくれる育ててくれます。生徒たちによく言うのは、良い人、良い本に出会い、良い旅をすること。その中で気づきが人生を変えるのではないだろうか。幸いなことに同じ場で三八年間、監督、教員をさせていただきました。その間は失敗の連続だったからこそ、学びの大切さを得ました。負けや失敗は人間を成長させます。過信や自惚れを戒め、謙虚や素直さを教えてくれます。

教育とは「教える育てる」と書きますが、日本では教える部分が多く、強制的になる場合が多いのではないかと。私もそれで失敗しました。そのたびに自分を見つめることができました。教師・リーダーの仕事というのは、教えるのではなく、一人一人の可能性を引き上げることだと思っています。

大学一年のとき父が亡くなりました。父の遺言には好きなことをせよとあり、学校と野球とアルバイト、睡眠四時間ほどの生活を大学四年間続けました。卒業後家に戻り驚いたことは、母が早朝から天秤棒を担いで行商に行っていることでした。私には全く知らされていなかったのです。その母の背中には毅然としていました。こうして自分たちを育ててくれたのか、と大変感動しました。そしてこういう教師・監督にならねばならない、と強く思いました。私にとって、人生のターニングポイントの第一の師は母親です。

■勝ち負けではない喜び

大学卒業後すぐ星陵高校に勤務しました。当時まだ6年目の新しい学校でした。自分に何ができるかを考えたとき、ただ一番早く学校へ行き、一

番遅く帰るということ。それを三八年間ずっとやり続けました。

当初生徒たちは挨拶ができませんでした。「おはよう」と言っても返ってこない。それはなぜだろうと考えました。通っている学校に喜びが湧かないのかもしれない。そこで私は学校が甲子園に出場すれば生徒たちも学校を誇りに思えるのではないかと考えました。それが甲子園を目指すことになるスタートです。

トイレの天井、机、シャツやパンツにも「甲子園」と書き「甲子園に行くから応援してくれ」と皆に声をかけました。大事なことは、「語る」ということ。「甲子園に行く」と「宣言する」、「書く」。そして「支えてくれる人を持つ」。こうして自分の発した言葉で人生は作られると思います。生徒には、「話す」「書く」「読む」を徹底してやらせました。部員は八人。

ボールもバットもないのに、三年後に甲子園に行こうというわけですね。鬼の山下と呼ばれ、スパルタでしたが彼らはついてきました。そうして三年目、彼らは石川県で優勝しました。

人生二度目のターニングポイント。甲子園での箕島と星陵の延長十八回の試合です。



試合中に選手が、ケガをして血だらけになっている相手方の選手を思いやる発言をしたとき、監督としてすごいチームになったのを感じました。そこには勝ち負けではない喜びがありました。自分はそれまで勝つ野球を目指してやってきました。箕島の尾藤監督の笑顔からも「待つ、信ずる、許す」ができる監督なのだと学びました。勝つ野球ではなく、育てる野球をしていくことに気づけたのです。それは人生観が変わる体験でした。

生徒に伝えていたのは、野球の技術よりも人間としてどうあるかです。キャッチボールには人生があります。キャッチボールではなぜ相手の胸元に投げるのか？それは思いやりからです。野球を通じて思いやりが生まれる。相手をリスペクトするのがキャッチボールです。

■本気で命を懸ける

夢は叶うものです。夢を叶えるためには、一生懸命本気で人の三倍努力すること。仕事とは、本気で命を懸けないとできないものです。現役のときは、夏休みなど五時にグラウンドに行き、草むしり、石ころ拾い、水撒きをします。そしてファースト、セカンドと順にグラウンドの神様に祈ります。祈るほどにグラウンドは輝いてきます。必ず心がけていることは、生徒一人ひとりに一日十回は声をかけること。「元気か?」「キャッチボール上手くなったなあ」「英語の点が上がったな」等々なんでもいい。そういう対話の中で自分も学び、そして生徒は伸びてきます。松井秀喜君は中学のときピッチャーとキャッチャーでした。彼にバッターに転向するように言い、そしてまたこうも言いました。「一年で石川県一の選手にしてやるぞ。三年で優勝しよう。将来、王・長嶋に継ぐスーパースターにしてやろう」と。自分がこうと思ったら、生徒はそういうふうになるんです。

六十歳での引退が、人生三つめのターニングポイントです。辞めた途端様々なところからスカウトされ、好条件を示されました。しかしこれまでに教えた生徒は三万五千人、野球部は何千人。彼らがもし迷ったときにどこに行くだろうと思うと、「ふるさと星陵高校」。尾藤監督もまた「箕島の尾藤で死ぬ」と言われました。

いま先生も選手も一流を目指す「甲子園塾」で若い監督を育成する塾をしています。社会の変化もある中で柔軟性ある考え方をもち、対応していくこと、そしてなにより惹きつける力のある指導者であることが大切です。人間の魅力溢れる指導者になってほしいと願います。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 山下智茂先生

「人生耐えて勝つ」

【Aグループ】

- ① 生徒を見抜く力(草むしりを見ること!!)
- ② キャッチボールに人生がある
- ③ 星稜の山下で死ぬ

【Bグループ】

- ① 師の一番目は母である(行商での凜とした姿)
- ② キャッチボールに人生がある
- ③ 自分の発した言葉が自分の人生を創る

【Cグループ】

- ① 自分の言葉で語って書く
- ② キャッチボールの中で相手のミスをカバーできる
思いやり
- ③ 強いチームは、トイレ・グラウンド・部室がキレイ
整理整頓の重要性

【Dグループ】

- ① キャッチボールに人生あり
- ② 草むしり (下座行)
- ③ 鏡を見て笑顔を作る＝人の心がわかる

【Eグループ】

- ① 叱られても、ありがとうを言える選手を育てる
ありがとうを言える選手は伸びる
- ② 人生は99%の出会い(努力)と
1%の運が決める
- ③ 一所懸命が人(魂)を引きだす



《読書会 Aグループ》

- ・指導 細川三郎代表
- ・テキスト 福沢諭吉『賢者の知恵』
- ・進行 北嶋紀子塾生

◇ 学問の要とは？

「学問の要は活用にあるのみ。
活用なき学問は無学にひとし」

＊学問は読書するだけでなく、書き、議論し、自分の考えを説明することにより、初めて学問しているといえる。
(Bグループ)

◇ 言葉を磨く

「近く人に接して直ちに我思う
ところを人に知らむ るには、
言葉の外に有力なるものなし」

＊いまの日本人は、いまの日本語を使って上手な弁舌ができるように励むべきである。



◇ 論語読みの論語知らず

「文字は学問をするための道具にて、たとえば家を建てるに槌や鋸の入用なるが如し」

＊槌や鋸といった道具の名前を知っているだけでは家を建てることはできない。それと同じで、文字を読んでいっただけで道具を知らないものは学者とはいえない。いわゆる「論語読みの論語知らず」とはこのことだ。

《読書会 Bグループ》

- ・指導 近藤宏枝塾生
- ・テキスト 森 信三先生『一語一会』
- ・進行 大西由香塾生

四月六日

縁なきひとの書物を数十ページ読むのが大事か、それとも手紙の返事を書く方が大事か このいずれをとるかによって、人間が分かれるともいえよう。

四月八日

お互い人間としてもっとも大切なことは、単に梯子段を一段でも上に登るということにあるのではなく、そのどこか「カ所」に踏みとどまって、己が力の限りハシマールをふるって、現実の人生そのものの中に埋もれている無量の鑽石を発掘することではなくてはならぬのです。

四月十六日

祖先の「血」は、即今この我にありて生きるなり。この理が真に解った時、初めて人生の意義も解り、同時のこの時初めて、天地の真相の一端にも触れえむ。

四月十七日

一心だに決定すれば、人は如何なる環境に置かれるとも、いつかは道の開けてくるものなり。ただそこに至る時の遅速あるのみ。



第七期へ向かって!!
登壇講師布陣

九月十五日(第三土曜)

入塾式

十月十三日(第二土曜)

鈴木秀子氏

「いま目の前のことに心を込めなさい」



東京大学人文科学研究科博士課程修了。文学博士。フランス、イタリアに留学。ハワイ大学、スタンフォード大学で教鞭をとる。聖心女子大学教授(日本近代文学)を経て、国際コミュニケーション学会名誉会長。聖心女子大学キリスト教文化研究所研究員・聖心会会員。

十一月十日(第二土曜)宿泊研修

瀬岡佳史氏

「岡潔博士と日本の情緒」



関西学院大学理学部卒業。和歌山県立高等学校教諭、県教育委員会指導主事等を経て、県立高等学校校長。定年退職。現在橋本市岡潔数学「A」会長として、数学者岡潔博士の顕彰活動を行っている。

十一月十一日(第二土曜)宿泊研修

武藤杜夫氏

「なぜ少年院で人生が変わるのか」

中学生時代から非行が始まるも、教育者としての使命に目覚め猛勉強のすえ法務省に採用。少年院の法務教官として非行少年を更生に導き、スーパー公務員として注目を集めるが、昇任を固辞して突然辞職。少年院の卒業生らと「日本こどもみらい支援機構」を設立、活動。

十二月八日(第二土曜)

上甲 晃氏

「生きる基本を問う!!」

「天分塾」からの常任講師。松下幸之助翁の薫陶を受け、松下電器産業(株)から松下政経塾に出身、理事・塾頭を歴任。1996年「志ネットワーク社」を設立、翌年「青年塾」を創設。現在22期生を迎える。『志のみ持参』『志を教える』『志を継ぐ』他著書多数

一月十二日(第二土曜)

木南一志氏

「学歴よりも本気歴」

鍵山秀三郎先生の後を受け四期より常任講師。四千日間の無事故無違反を推進する循環型の運動を実施、社員の自発的な努力の必要性を促している。本物と呼ばれるような企業を目指して、柔軟なスタンスで事業を推し進めている。

二月十六日(第三土曜)

横田南嶺老師

「禅の教えに学ぶ」

第三期より常任講師を務めて頂く

小池心叟老師について出家得度。1987年筑波大学卒業、京都建仁寺僧堂、円覚寺僧堂にて修行。円覚寺足立大進老師に嗣法。2010年臨済宗円覚寺派管長に

三月九日(第二土曜)宿泊研修

中桐万里子氏

「尊徳翁に学ぶ人づくりの秘訣」



二宮金次郎から七代目子孫。慶応義塾大学環境情報学部卒業後、京都大学大学院に入学。京都大学博士(教育学)。専門は臨床教育学。現職は、親子をつなぐ学びのスペーススリレイト代表、関西学院大学講師、国際二宮尊徳思想学会常務理事など歴任。

三月十日(第二土曜)宿泊研修

我那覇真子氏

「生きる基本を問う!!」

2005年 高校交換留学で米国オハイオ州・カリフォルニア州へ・2012年早稲田大学人間科学部卒業現在「琉球新報、沖縄タイムスを正す県民・国民の会代表運営委員、琉球新報、沖縄タイムスを正す県民・国民の会代表運営委員。著書『日本を守る沖縄の戦い』

※ 宿泊研修(悠久の地世界遺産で「非日常空間」を

11月 和歌山・高野山(無量光院)

3月 京都・仁和寺(御室会館)

四月十三日(第二土曜)

松岡 浩氏

「時を守り、場を清め、礼を正す」

家業のスーパーマーケットの経営を経て(株)タニサケを設立し「ゴキブリキャップ」爆発的にヒットさせる。2003年社長職を辞し、会長となる。「中小企業の手本となる会社」を目指したいと、現在は講演活動や社会活動に取り組む。毎月一回無料で「タニサケ塾」を主宰。

五月十一日(第二土曜)

石川真理子氏

「武士道とは愛することと見つけた」

武家の家系に生まれ、祖母から武家に伝わる薫陶を受ける。武士道や武家の生活文化を独自に学び、忘れられた「婦道」啓蒙活動を行う。著書『女子の武士道』『女子の教養』『勝海舟修養訓』他多数。

六月八日(第二土曜)宿泊研修(京都・仁和寺御室会館)

池田整治氏

「本当のことを知れば生き方が変わる」

元陸上自衛隊 陸将補。1960年半ば北朝鮮危機時の警察との勉強会、オウム教上九一色村サティアン強制捜査に自衛官として唯一支援した体験から独自に世の真実を研究。退官後は、日本人の意識向上のための言論活動を展開中。

七月十三日(第二土曜)宿泊研修(京都・仁和寺御室会館)

山川 晋氏

「熱く生きる」

会計人の使命とは何か、との問いに明快な答えを与えてくれた師匠の越智直正に人間学を学ぶ。中小企業の社長が元氣になれば日本が良くなる、ボランティアで毎月一回「人間学」を開催。「現代の論語と算盤」を追求している。

八月十七日(第三土曜)

卒塾式

※ 詳細は、「第七期入塾案内」を確認ください。

《お薦め書籍》

『大人になるってどんなこと』 吉本ばなな 著



出版ちくま新書
頒価七三四円(税込み)
ISBN 13978-480899929

中学生の孫に読んでもらいたくて、購入しました。想いがギョツと詰まった一冊です。ある程度の年齢になった大人の人が読んで、生きるのが苦しい世の中で、誰を信じてどう生きて行くかその助けになる本です。中学生くらいの時にこの本が教科書としてあればどんなに良かったらうと思いました。

中々聴きたくても聴けない質問の答えが本の中にあります。人は誰でも愛され、愛してこの世を生きて死んでいく。一人では生きて行けないのだと思います。大人になっている(成人している)けど、自分は内面の部分で大人になりきれないのかも?と感じてる人達に読んでほしい本です。きつと気持ちや安心感を得られると思います。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三 先生

「やり遂げる」

一人の人の人生が、真に充実した一生になるかならないかは、その人が「今日」一日の仕事を、予定通りにやり遂げるか否かによって別れるわけです。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《人間学塾・中之島》

■ 基本カリキュラム

*日時 6月9日(第二土曜)

*場所 大阪大学中之島センター

10F 佐治敬三ホール

*講師 矢作直樹 先生

「我が国のかたち」

1959年神奈川県生まれ。医学博士、東京大学名誉教授。元東京大学医学部附属病院救急部・集中治療部部長。2007年任期満了退任。2012年『人は死なない』を上梓、死後世界の存在を主張して80万部となり、以後出版活動をスタート。2014年『おかげさまで生きる』は30万部を突破。2016年(株)矢作直樹事務所を開業。『日本人のお役目』『天皇』など著書多数。

■ 郊外学習案内

「本居宣長のふる里を訪ねて」

*日時 6月23日(土曜日)

*場所 本居宣長記念館く近隣見学

三重県松阪市殿町一五三六-七

*行程 アクセス往復観光バスチャーター

・集合 午前8時30分

大阪難波「近鉄ビル」前

・出発 午前9時時刻厳守

・講話 本居宣長記念館 館長講話

記念館内見学

散策 ぶらり市内観光(予定)

・帰着 午後6時ごろ

大阪難波着

(詳細は案内確認ください)

【第七期体験入塾案内】

*日時 六月九日(土曜)

課外カリキュラム(DVD放映山下智茂先生

午前十時三十分〜午前十一時四十分

森信三教学を学ぶ会

午後0時三十分〜午後0時五十分

基本カリキュラム

矢作直樹氏

「我が国のかたち」

午後一時〜午後三時三十分

体験入塾説明会

午後三時四十五分〜午後四時五十分

交流会(2Fカフェテリアスコラ)

午後五時十五分〜午後六時三十分

※詳細は別途「体験入塾案内」を確認ください。

塾生のみなさまは、お一人でも多くの方々へご紹介お誘いくださいますよう、お願い致します。

★ 第八回合同読書会が、4月22日近藤宏枝代表世話人の「四国中央読書会」に幹事の労を執って頂き、開催されました。

